

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	肺癌の転移リンパ節における免疫担当細胞の発現と術後再発の相関
	研究目的	がん細胞は増殖する一方で、体内で「異物」として認識され、免疫機構が働いている。免疫担当細胞にはTリンパ球、NK(ナチュラルキラー)細胞、樹状細胞、マクロファージなどがある。原発巣のがん細胞周囲で見られる免疫担当細胞浸潤が腫瘍の増殖を抑制しているという報告も見られるが、肺癌の転移リンパ節においてどのような免疫機構が働いているかはよく分かっていない。本研究の目的は、肺癌の転移リンパ節における免疫機構の働きを各免疫担当細胞の発現頻度を解析することで調べ、分子病理学的特徴を明らかにすることである。当院で非小細胞肺癌に対し、2008年から2015年の間に根治切除を行った中で20症例を選択し、臨床病理学的データを使用する。肺癌転移リンパ節における免疫担当細胞の発現頻度を免疫組織学的に比較し、免疫反応の相違と術後再発の相関を解析する。
	研究期間	西暦 2017年 11月 2日 ~ 西暦 2019年 3月 31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	鮫島譲司
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	呼吸器外科、病理診断科、臨床研究所、呼吸器内科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし